

今週の話題:

< HIV 感染者に対する結核の予防療法 >

方針提示: 結核の予防的治療法 (PT) とは、潜伏している *Mycobacterium tuberculosis* (TB) の活性化を防ぐために抗結核薬を用いることである。HIV は TB 活性化の最も強力な因子で、最近十年間の HIV 感染率が高い地域における結核発症率上昇の主因である。PT は HIV と TB の二重感染を防ぐが、実施には様々な条件が必要である。PT は活性化 TB 感染患者に用いると薬剤耐性菌を発生させる恐れがあるため、ツベルクリン反応陽性、HIV 陽性でかつ結核が発症していない人を対象とする。抗結核薬としてはイソニアジド (INH) (5mg/kg、最大 300mg/日) が推奨される。PT 実施機関は、公衆衛生プログラムなどとの関係を重視しながら、喀痰や胸部 X 線写真による TB のスクリーニング、カウンセリング、PT の評価などを行うべきである。

詳細報告

HIV 感染患者に対する PT の効果: TB 感染率が高い国では 2.4-7.2% の HIV 感染成人が毎年結核を発症し、そのうちツベルクリン反応陽性の人は 3.4-10% が発症している。

INH を用いる PT の効果: ツベルクリン反応を受けられない、TB 流行地域に住む HIV 感染者に対する INHPT は、結核発症の危険性を 60% 減少させる。

INH と他の処方法の比較: リファンピシンとの混合処方の方が有効という報告もある一方、INH 単品処方よりも確実に優れているという報告はない。

療法の継続: 現在まで INH 投与の長期追跡評価は行われていない。

死亡率に対する PT の影響: 個人に対する影響は少ないが、広範囲での施行は死亡率に影響するかもしれない。

途上国への供給: PT を途上国に供給できる可能性は明らかでない。対象の選別が重要。

費用効果と費用利益: 対象の選別が的確で、大規模なサービスが行われれば、低予算で PT を提供できる可能性がある。

現在の VCT (自発的なカウンセリングと検査) の問題点: 多くの HIV 感染者が感染を認識していないので、VCT を設立して、PT を供給する必要がある。VCT サービスは PT だけでなく、補助・治療・予防活動を拡張させた範囲で行われている。

PT の潜在的影響: TB の発生率を考慮し、PT はより多くの人々に施行されるべきである。HIV 陽性の人々 1500-3300 人に対してスクリーニングが必要で、その為には VCT サービスによる年間 4000-8000 人の検査が必要になる。HIV の状態が不明瞭な地区には PT の供給が不十分であるから、促進させる必要がある。

PT サービスの普及: TB プログラムは、TB の伝染を減少させる効果的なプログラムであるが、組織間でのキャパシティが異なるので、一定の標準レベルを設け、それに到達する事が必要である。

薬の管理: 8 種類の異なった管理法が TB 陽性、HIV 陽性の人々へのリスク減少のために提唱されてきた。個々の記録を PT の使用文書として残し、定期的にレポートとして集め、薬の必要量を把握する指標とするべきである。

結論

PT は TB コントロールのための戦略とは関係ないが、結果として TB の予防に役立った。

表 2: INH の予防療法の効果、表 3: リファンピシンについての調査

表 4: 実行可能な調査において、PT サービスを中断する患者の比率、表 5: 一人の結核患者発生を予防するために、PT サービスを受けるべき患者数の推定比 (WER 参照)

表1 HIV感染者の結核罹患率

国 人口 ^a	結核感染率-%/年 (サンプル数)			
	総数	ツ反陽性	ツ反陰性	アネルギー
ヨーロッパ及びアメリカ合衆国からの調査				
イタリア 95 (70% IDU)	2.2 (5 520)	4.5 (207)	2.1 (5 313)	2.9 (1 687)
スペイン 93 (IDU)	9.6 (290)	10.4 (76)	6 (214)	8.1 (90)
スペイン 93 (non IDU)	0 (57)	0 (8)	0 (49)	0 (22)
スペイン 93 (60% IDU)	2.8 (768)	16.2 (26)	2.4 (742)	2.6 (235)
アメリカ合衆国 89 (IDU)	2.1 (215)	7.9 (49)	0.3 (166)	
アメリカ合衆国 92 (IDU)		9.7 (25)		6.6 (68)
アメリカ合衆国 97 (60% IDU)				0.9 (257)
ラテンアメリカからの調査				
ハイティ 93	7.5 (70)	10.0 (25)	5.7 (35)	
メキシコ 93		5 (69)		
アフリカからの調査				
コンゴ民主共和国 91 (女性)	3.1 (249)			
ケニア 97	3.9 (342)	8.0 (69)	2.7 (224)	
ルワンダ 92 (女性)	2.4 (401)	5.5 (73)	2.1 (211)	
ウガンダ 97		3.4 (465)		3.1 (323)
ザンビア 92	5.3 (246)			
ザンビア 98	4.9 (350)	9.2 (60)	3.1 (166)	

^aIDU=静脈注射薬剤使用者

国、静脈注射薬剤使用率、調査年ごとに、年間の HIV 感染者における TB 感染率を示している。ただし調査の基準が各国で若干異なるので、直接比較するには注意が必要である。

流行ニュースの続報

インフルエンザ

1999年10月後半から11月初旬にかけて、カナダ、フランス、ドイツ、オランダ、ポーランド、ポルトガルにおいて、インフルエンザ流行の続報が報告された。

東チモールにおける健康状態

東チモール人の2.9% (2万人) が結核のキャリアゆえ、治療計画の再考が必要である。

アフリカにおけるコレラ最新情報

1999年8月から9月にかけて、ケニア、モザンビーク、ソマリア、ウガンダにおいて、コレラ流行の続報が報告された。(WER 参照)

流行ニュース

ルワンダにおけるコレラ

10月14日-31日の間に140例、358人死亡。ビブリオコレラ、血清型「稲葉」が検出された。飲み水からの汚染が主であった。

(前田達慶、野村和久、足高善彦、片岡陳正)